Associação Crianças de LUZ

CANOA だより

59

2017年1月発行

文・写真_鈴木真由美　編集＿星久美子・真野由紀　発行＿光の子どもたちの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracatí-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先：info@criancasdeluz.org

明けましておめでとうございます！

2017年も、よろしくお願いします！

旅立つとき

昨年の私の長期不在、そして今年に入ってからの様々な出来事。今まで当たり前のように保育園や学童教室を運営し、それを担うだけの力を持った人材が育ってきていたことの喜びをあざ笑うような試練が、次々に起こった1年でした。それはあたかも「お前たちの力はまだまだなんだぞ。こんなもので満足していていいのか？」と、鞭を打たれたような気持でもありました。

カノア・ケブラーダ地区の公立学校の改修工事が、建築会社がとん挫したために中断され、学校を継続していくために仮校舎として私たちが学童教室として使用していた施設を受け渡す必要が出たこと。これにより、学童教室1クラスを閉鎖せざるを得なくなりました。その後、保育園の担任であるパトリッシアが年内で退職することが決まり、その地位を担うことのできる人材への確保を目指すも、上手くいかず。今までならその助手を務めていたものが独り立ちできると判断されたタイミングでの退職だったのですが、今回は私たちもこの人材確保に関しての甘い判断により、年末に至ってもこれという人材と巡り合うことができず、今後の活動を大幅に計画変更する必要が出てきてしまいました。

やっと育ててきた人材が、自分の生きる力に気付き、この村を出て独り立ちしたいといったとき、それはある意味私たちの活動としては一つの成果であるといえます。そのため、私たちとしてはこれからのその人の人生を応援することはあっても、それを否定するということはありません。ただ、現地の活動を考えると、その人にはいてほしい。これこそ本当の“ジレンマ”です。

2017年は新たな1年の幕開けとなります。どうか皆様、引き続き温かく見守り、応援していただけますよう、お願いいたします。

Go Youth!＊Viva Jovens!
＃06

世界へ羽ばたく！
「光の子どもたちの会」卒業生

今回は「光の子どもたちの会」の保育園で働く、２人のスタッフのエッセイをご紹介します。
彼女たちの旅立ちと決意。これからも「光の子どもたちの会」は応援していきます。

翻訳：鈴木真由美

Marieta Batista da Silva（マリエッタ・バチスタ・ダ・シウバ）

※次頁、写真右

私はマリエッタ・バチスタ・ダ・シウバです。1990年2月13日生まれで今、26歳です。私は母と4人の兄弟、姉の家族と共に小さな家で暮らしています。私を含め3人が働いていますが、家計はいつもとても苦しいです。私の両親は貧しく、私は今までずっと公立の学校に通ってきました。それでも私は自分の夢である、「教師になること」をあきらめたことは一度もありません。その夢は、「私の住むこの村を助けたい」という思いでもあるからです。

私が住むエステーヴァン村は、セアラ州アラカチ市にあり、伝統的な漁を営んでいる家族が住む村です。そしてこの村に、「光の子どもたちの会」が運営する、素晴らしい保育園があります。私は2013年より、この保育園の一員として働いており、これからもこの仕事に携わっていきたいと願っています。そのためには、大学（教育学部）を卒業する必要があります。私たちが住む町には私立の大学しかなく、今の私には、大学への復学は難しい状況です。それでも大学に復学しなければならないのは、ブラジルの法律が改定され、教師として、担任として保育園や学校に勤めるものはすべて、教育学士を持っていなければならなくなったからです。私がこの仕事に携わり続けていきたいという思いは強く、この村の子ども達のためにも、今まで以上に努力していくつもりです。

大学の教育学部で学ぶことは、教育学士を得るだけでなく、子どもと携わる仕事をしていく上での知識や、教育方法を学ぶ良い機会でもあると考えています。一度は休学せざるを得なかったこの大学での勉強ですが、今、また卒業に向けて歩みだす時が来たと感じています。この今の気持ちを胸に、大学での勉強だけでなく、仕事にも生かしていきたいと強く思っています。この村で「光の子どもたちの会」の活動が続けられていく中で、教育者として信頼されるためにも、私自身が成長する必要があるのです。

ぜひ私が大学に復学できるよう、たくさんの方々からの支援と応援の程、よろしくお願いいたします。

Go Youth!＊Viva Jovens!
＃07

Patricia Marques da Silva（パトリッシア・マルケス・ダ・シウバ）
※写真左

私はパトリッシア・マルケス・ダ・シウバ、25歳です。エステーヴァン村に住んでいます。今回、私は感謝の気持ちを皆様にお伝えしたく、筆を執りました。

「光の子どもたちの会」で働いていたこの数年間は、私にとってとても特別な時間でした。それは、教師という職業も含め、私を大きく成長させてくれました。「光の子どもたちの会」で働きながら私たちの村を見てみると、今まで自分が生まれ育ってきた村でありながら、違った視点で、捉えることができました。私の人生の中で得られた機会というのは、ほとんど全て、「光の子どもたちの会」を通してでした。大学に進学し、卒業できたこと。サンパウロのモンチ・アズールに１年間の研修に行ったこと。2014年の１年間を住み込みで働いたこのモンチ・アズールこそ、「光の子どもたちの会」の活動の原点であり、そこから種がまかれ、今に至るということがよく分かりました。

９年間という年月を共に過ごした「光の子どもたちの会」へは、感謝の言葉しかありません。今、私は、旅発つ時がやって来たと感じています。2017年は私にとってチャレンジの１年となるでしょう。サンパウロに再び足を踏み入れ、勉学（修士課程）に励みたいと考えています。そうすることで、また一回り成長し、私の家族や生まれ育った村に何かできるのではないかと考えています。

あきらめないこと。信じること。皆さんにとっても素晴らしい道が開かれることを心から願っています。

久しぶりのカノア＊ Quanto tempo em Canoa

約９年ぶりのブラジル。私がカノアケブラーダ・エステーバン村に初めて訪れたのが2007年で、約１カ月間ボランティアとして滞在しました。当初は2年以内にまた来よう、と思っていたのに、気づいたらこんなに長い月日が経ってしまいました。

最初は、村のみんなは覚えてくれているだろうか、当時の子どもたちは大きくなって変わっているだろうな、と不安とワクワクが入り混じった気持ちでした。でも、翌朝、村や海辺を散歩していたら、「はるな？」とすっかり青年になった子が駆け寄ってハグをしてくれたり、村の人が家に呼んでくれたりして、少しずつ不安な気持ちが消えていきました。この村のみんなのさりげなく温かい感じや人懐っこさが、とても懐かしく感じました。

滞在中は、学童保育と保育園のクラスにお邪魔しました。光の子どもたちの会では、フラビアーニ、パトリッシア、マリエッタの３名の先生が働いています。私はフラビアーニの学童のクラス（８～９歳）で、マグネットや写真立てのフレームをビーズでデコレーションするワークショップを行いました（子どもたちが作った作品は日本に持ち帰って、次の国際フェスタで販売予定です）。ちょうど翌週にクリスマスのフェスタが予定されていたので、それに向けた劇やリコーダー演奏のリハーサルも見学できました。先生たちは、休み時間の間も、子ども達へのプレゼントや招待状の準備など、やることが盛りだくさん。私も少しだけ先生のお手伝いをしましたが、一つひとつが手作りで、思った以上に大変でした。それでも手抜きしたりせず、責任感を持って真剣に取り組んでいる彼女たちの姿が印象的でした。フラビアーニが「休みの間、どこかに遊びに行っても、『クラスでこれ使える！』と、ついつい仕事のことを考えてしまう」と言っていたのを覚えています。今後、もっと会の活動を応援していきたい！という気持ちが強くなりました。

３日間という短い滞在でしたが、私にとっては本当に貴重で忘れられない時間でした。青い空、エメラルド色の海、砂丘から見る夕日、そしてみんなの温かさにたくさんエネルギーをもらいました。弾丸スケジュールでしたが、本当に行って良かった！そして、また戻ってきたいと思います！

坂井　春菜
「光の子どもたちの会」運営スタッフ。（写真右）

子育て日記より

長女は小学6年生。12歳になり、今までよりも少し大人になった様子。だからこそ、私が何か言うと、それに対して疑問があるときはとことん質問してくるし、今まで以上に学校であったことなどを事細かに説明し、そこで自分は何を感じ、どうしたのか。先生たちは何を言って、どうしたのか。自分はそれに対してどう感じたのかなど、もともとおしゃべりだったこともあり、気づくとずーっと、長女の話を聞いていることがあります。それと同時に、私たちが忙しいと、率先して家の手伝いをしてくれるようにもなりました。この子は一つ階段を上ったんだ。そんな気持ちにさせてくれます。まだまだ危なっかしいところもあり、年の割には幼いところもあるので、そのギャップが親としては面白いのですが、娘の成長を見ながら、自分たち自身の今後の人生、その行方を今まで以上に真剣に考えるようになっている今日この頃です。

カノアに行ってきました＊Fomos para Canoa Quebrada

JICA（国際協力機構）の
日系社会青年ボランティアとして
ブラジルで活動する日本人が
カノアを訪れました。
そこでの体験を聞いてみました！

「みんなここが好きなんだなぁ。」
私がカノアケブラーダに訪問して一番感じたことです。
そこで働く人々は気さくに話しかけてくれ、カノアの魅力をそれぞれの言葉で教えてくれました。
私の未熟なポルトガル語レベルでも理解できるような丁寧な説明や
強い紫外線でも外に行きたくなるようなアクティビティでもてなして頂きました。
地元の方々の「好き」が伝わってくる旅、そして私もカノアを「好き」になった旅でした。
muito obrigada!!
（小林蒔／職種:ソフトボール　サンパウロ在住）

自然の美しさに圧倒されました。海が感動的に美しい！
少し離れれば真っ白な砂丘があって、夢の中にいるようでした。
人々もとても親切。
家族や友達を大切にしながら日々の生活を送っている姿がとてもいいな、と思いました。
生活の様子や学校を見せて頂いて、異文化にびっくりしたり、共感したりの、
とても貴重な体験をすることができました。
悩みも問題も、形は違えどみんなが持っていること。
カノアにいる間、毎日のんびり景色を眺めるだけで元気になりましたが、
カノアの町も人もいつまでも元気で素晴らしいままでいてほしいなと強く思いました。
（石川亜美／職種:幼児教育　ベレン在住）

まずカノア・ケブラーダを知ることができて本当に幸せです。
きれいな水色の海とまるでその海をきれいに映すためにあるかのような赤い崖の景色はとても美しかったです。
すぐ近くには大きな白い砂漠のようなものが広がり、
ブギーを少し走らせるとたくさんの緑が美しい川を見ることができます。
こんなに色とりどりの自然が感じられる場所と思いきや、ブロードウェイと呼ばれるカノアケブラーダの中心地に
はたくさんのレストランとお土産店が並んでいて、まるで都会の一角のようです。
7日間の滞在で今回お世話になった村の方達を始めとし、たくさんの地元の方々の温かみを感じることができました。
みなさん本当に親切で明るくて素敵でした。
カノア・ケブラーダは私のお気に入りの場所になりました。ぜひまた訪れたいです。
（古川みく／職種:ソフトボール サンパウロ在住）

ブラジルに来てから、大都会サンパウロ以外の場所をまだよく知らなかった私にとって、
カノア・ケブラーダは夢の中にいるような、そんな素敵な場所でした。
村の方々に温かく迎えていただき、年末年始を清々しい気持ちで過ごすことができて
感謝の気持ちでいっぱいです。太陽、星空、風、潮の香り…
自然からパワーをもらえた旅でした。
（福尾香織／職種:小学校教育　サンパウロ在住）

国内活動＊Atividade no Japão

次回は
3月25日
（土）

ブラジル料理を食べてみたい方、料理好きな方、様々なバックグラウンドを持った人と交流したい方など、誰でも気軽に参加できる会なので、ぜひ遊びに来てくださいね。料理のリクエストも受け付けています。
詳細はFacebookで！

●9月4日　ブラジル料理教室　肉料理！

今回は、いつも料理教室に参加して下さる方からリクエストがあった、**牛肉の鍋煮込み**、**キビ（挽き割り小麦と牛肉のブラジル風揚げ肉団子）**、**コーンケーキ**、そしてエレナさん特製のドレッシングを使った**サラダ**を作りました！講師の平塚エレナさんは、「子どもたちのために」と材料費を毎回負担してくださっています。エレナさんの温かい気持ち、そして参加してくださる方々がいるからこそ、これまで10回以上にわたり料理教室が続けてこられました。本当にありがとうございます！料理教室の収入は、定期的にブラジルに送金し、現地での活動に使われています。今後もより多くの方に参加頂ければ嬉しいです！

●10月8～10日 横浜国際フェスタ2016

「光の子どもたちの会」として毎年参加している国際フェスタですが、初日と2日目は、あいにくながら雨に見舞われ、客足も遠のきましたが、3日目には雨も上がり、たくさんのお客さんにブースに立ち寄ってもらうことができました。ブースでは、例年のごとく、エステーヴァン村のお母さんたちの手作りレース「ラビリント」を売ったり、カノア・ケブラーダの写真を展示したりしました。

中でも、人気だったのが、エステーヴァン村発祥の**オリジナル「ゆるキャラ」**です。このゆるキャラ、お母さんたちの手作りのため、一つ一つ微妙に顔が違い、何とも愛くるしいです。ブースに立ち寄った多くのお客さんが、自分と目の合ったゆるキャラを購入して下さいました。機会があれば、ぜひ一度手に取って見て下さい。一つ300円ととてもお手頃な値段も人気の理由です。

今回は3日間のブースの運営をたくさんのスタッフにお手伝い頂きました。**東海大学の学生団体「ベイジョ・メ・リーガ」**の学生たちにも手伝ってもらい、ブースにもとても活気がありました。何よりも、ブースに立ち寄ってもらったお客さんに少しでも光の子どもたちの会の活動について知ってもらえてよかったです。

●11月27日　ブラジル料理教室

ここ最近、多くの友人から「ブラジル料理のお店へ行ってきた！」と聞くようになりました。オリンピックの影響もあったからなのか、皆さんあの陽気で楽しそうな世界へ行ってみたいと興味が沸くそうです。そこで、私も**「ブラジルのクリスマスってどんな味？」**と興味をそそられて、今回の料理教室へ参加させて頂きました。

「レモンの酸味が効いて、日本の酢の物の様に甘くなく、塩気の効いたサラダソース」、「ごはんにカシューナッツやレーズンを入れることでほんのり甘味の引き立つ炊き込みご飯」、「砂糖とココナッツパウダーで作るかわいいスイーツ」と、どれも普段食べることのない国の料理だからこそ味わうことのできた体験でした。

ありがとうございます＊Obrigado

平成28年5月24日～平成28年11月28日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

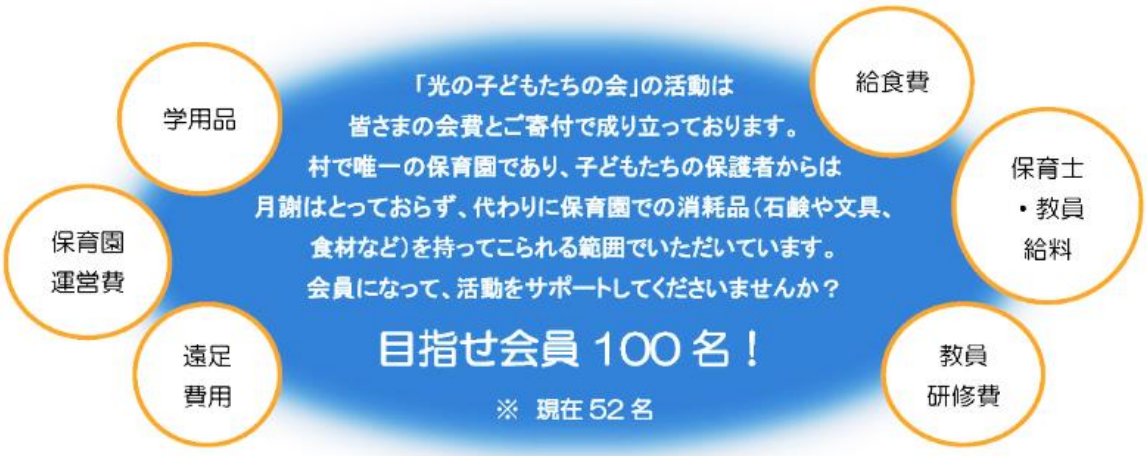
これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていっていただけると嬉しいです。目標会員100名！！！

会費及び寄付を頂きました皆様（順不同）

岩本希和さま、大庭富美香さま、小畑浩さま、神田昌実さま、定森徹さま、
田中千鶴子さま、長谷川宏さま、三崎健司さま、村上誠さま

物資支援をいただきました皆様（順不同）

坂井春菜さま、三崎健司さま、Sr. Ruben Codina



年会費（五千円）・ご寄付のお振込み方法は4つ

1. 自動引き落としによる振込み

自動引き落とし希望の口座のある金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行の場合は以下の〈2. 郵便振替〉と同じ口座番号ですが、他金融機関からの振込の場合には〈3. ゆうちょ銀行振込〉の口座番号となりますので、ご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号：00280-1-41787
加入者：光の子どもたち-カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義：光の子どもたちの会　店名：〇二八（ゼロニハチ）
店番号：928　普通預金　口座番号：5552598

4. インターネットよりクレジットカードで振り込み

光の子どもたちの会ホームページ
（http://criancasdeluz.org/inicial/index_jp.html）より、
お振込みいただけます。

お問い合わせ先：　代表　鈴木真由美、日本事務局長　堀池眞輔
〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町 1-7-1　TEL/FAX 045-321-1824　info@criancasdeluz.org
フェイスブック「光の子どもたちの会」　ホームページ：http://criancasdeluz.org

カノアニュース＊Novidade em Canoa

学童教室に新たな仲間、サーカス団 登場!?

後期の始まる８月より、一人の先生が週に２回、私たちの活動に参加してくれることになりました。カルロス・ソアーリスという男性で、カノア・ケブラーダ地区にあるサーカス学校で働いているのですが、ぜひ、私たちの保育園と学童教室でもこのサーカスを教えたい！ということで、参加してもらうことになりました。

保育園の年齢の子ども達を教えることが初めての彼は、始めはどんな風に、何を教えたらいいのか戸惑っている様子でしたが、日本でいう「体操教室」のように、マット運動を中心に柔軟体操など、子どもの体を作ることを基本として教えてくれました。そして学童教室の子ども達には、そこからさらに一つ上の活動として、布を伝う演技、器械体操、ジャグリングなどを教えてくれました。子どもたちにとっても週に１度のこの活動は待ち遠しいものであったようで、「Tio Carlos（カルロス先生）がきた！」と、彼が自転車でやってくるのを、いつも窓を眺めて待っているほどでした。今回は試験的に行っていたこの活動でしたが、子どもたちの評判も良く、先生たちからも引き続き活動の一つとして取り入れたいという希望もあったので、新年度も実施していくことになりました。さて、今度はどんなパフォーマンスを見せてくれるのでしょうか？今からとても楽しみです。

子どもたちの
練習の様子